

## 2016 CES ハイエンドオーディオ見学レポート

パナソニック㈱ アプライアンス社

井谷 哲也

本年も1月6日より9日までの間、ラスベガスコンベンションセンター（LVCC）及びその周辺ホテル会場でCES2016が開催された。広く知れ渡っている通り、CESは世界最大級のコンシューマエレクトロニクス展示会であり、本年も全世界より多くの展示、参加見学者を集めていた。

今年のCESは、AV分野ではUltra-HD、HDRなどが着目され、民生ではIoT、スマートホームなどが報道されているが、筆者が実際に歩いて感じたのがドローンの流行であった。昨年までは数えるほどだったが、今年は多数のメーカーがドローンを事業化しているのには驚く。中国系の出展者と思われるが、LVCCのサウスホールの一隅はドローンメーカーに占拠されていた。ここ数年ノースホールが自動車メーカーに占拠され、サウスホールがドローンにと、CESは大きく様変わりしているのが見て取れる。

例年通り、Venetian Tower ホテル Suiteの上層階（29・31階、34、35階）にて高級オーディオメーカーの展示及び試聴デモが行われていた。日本を含む全世界のマスコミ関係者や一般オーディオマニアに加え、バイヤー、ディストリビューターの来訪も多く、商談のきっかけの場としての意味も持っている。更にVenetianを含むLVCC周辺ホテルSuiteでは、半導体やSolutionメーカーのプライベート展示もあり、エンジニア達の情報交換の場としても活用されている。

ここではVenetianでの展示を中心にレポートするが、特に今年は自社ブースに拘束される時間が長く、限られた時間での視察であったため、少数のブースしか見学できておらず、偏ったレポートになってしまった事を予めお断りしておく。

我々Technicsブランドは、昨年が復活後初めての参加で、今年が2年目という理由から、来客数の増減実感はあまりないが、多くの出展者の方々に伺うと、例年より来場者数は減っていると言う。直前の天候が悪く、霧で西海岸のフライトの多くがキャンセルされていたので、来訪者に影響が出ていたのかもしれない。

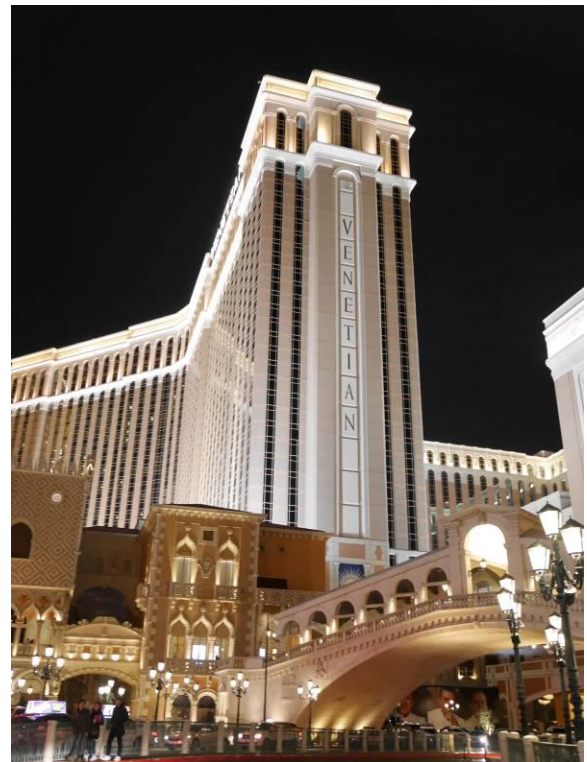


写真1. Venetian Tower Suites の夜景  
～眠らない街ラスベガス～

## Sony

今まで同様、ハイレゾ関連機器中心の豊富なラインアップに加え、今回発表されたレコードプレーヤーPS-HS500を展示。レコード音源をDSD/WAVなどのハイレゾフォーマットに変換可能なコンセプトが注目されていた。ベルトドライブ型で、フォノイコ内蔵、ストレートトーンアームも独自設計、USB出力を持つ。2016年春ごろに発売予定。PC向けのハイレゾ編集ソフトも提供予定とのこと。



写真 2. Sony 最高級機群の試聴コーナー



写真 3. TA-A1ES 内部展示



写真 4. 新発表の PS-HS500



写真 5. PS-HS500 背面 (LVCC にて)

同社はもちろん LVCC のブースにも多くのオーディオ商品を展示していた。写真 6 は、その中のひとつ“グラスサウンドスピーカー”。ランタン型の Wireless スピーカーで、まだ試作段階だそうだが、照明の仕込まれたガラス部がエンクロージャーになっていて上部にパッシブラジエーターを備え、中高域は有機ガラス部を加振器で振動させ 360 度に拡散されるという巧みなコンセプト。



写真 6. ランタン型スピーカー

**TAD**

Venetian の 34、35 階は天井が高く、広くゆったりとした Suite で音響的にも優位。YG、BOULDER、PASS 等の超高級ブランドブースが並ぶ。主要各社がブースを構える 29 - 31 階の下層階に比べると、ぐっと見学者の数が減るが、それだけに時間をかけて邪魔されずに聴けるのが特徴。

TAD は 34 階にブースを構えていたが、同社は他の展示会でも、いつも上質な空間を作られているのに感心する。ここでもお客様はじっくりと聴かれて満足されていた。時間帯によって、デモ機器の内容を変えておられる模様で、筆者が訪問した際には、TAD-CE1 を Audio Alchemy 社のアンプでドライブされていた。

昨年組織変更があり、今年から日本のサポートの必要が増したとの事で、同社技術開発部スピーカー課課長の長谷さん、エレクトロニクス担当の沼崎さんらが日本から出張されブース設営から運営までを対応されていた。



写真 7. 毎年の様に、ゆったりと  
“聴かせこむ” 感じのブース



写真 8. Audio Alchemy 社アンプで  
CE1 をドライブ



写真 9. 脇に出番を控えている  
同社スピーカー群



写真 10. TAD 沼崎さんと長谷さん

### ECLIPS By Fujitsu Ten

タイムドメインで有名な同社は、5.1ch の環境と 2ch の環境を作りデモ。ここでは白井さん、渡辺さんの 2 名の日本人の方が対応され、いつもの様に定位の良い音でお客様も納得されていた。聞けば、渡辺さんは普段は UK をベースに活動されており、CES には毎回出張対応されているとのこと。欧州での同社の強さが伺える。



写真 11. TD-M1 によるデスクトップ  
2ch のデモ



写真 12. ECLIPSE の白井さん、渡辺さん

### Accuphase

Accuphase は、北米のディストリビューターである AXISS が毎年 Venetian に出展。今年は同社副社長の鈴木さん自らが出張対応されていた。偶々筆者が訪問した時には、欧州の著名ライターが鈴木さん取材中で、欧州でも人気のあるブランドである事を物語っていた。

なお、北米ではプリメインよりセパレート型の需要が高いとの事で、試聴システムも同社セパレートアンプ C-3850/P-7300 でガウダーアコースティックをドライブしていた。



写真 13. 同社最高峰セパレートアンプでデモ



写真 14. Accuphase 鈴木さん

## AIR TIGHT (エイ・アンド・エム)

同じく AXISS を代理店として北米に展開されている真空管アンプメーカーの AIR TIGHT (エイ・アンド・エム)。同社社長の三浦さん以下、営業部の須田さん、富田さん、製品計画の林口さんなど多くのベテラン社員の方が出張されて、きめ細かに対応。この一角はまるで日本のショーの様な雰囲気だった。

同社は北米でもファンが多く、三浦さんもこちらの方々に広く知られている模様で、多くの来場者の方から挨拶を受けておられたのが印象に残った。



写真 15. エイ・アンド・エム出張者の方々  
林口さん、須田さん、富田さん、三浦さん



写真 16. Reference パワーアンプ ATM-2001



写真 17. 自社ラインアップの前で、  
会場で新購入の MoFi-LP を  
持ちご満悦の須田さん



写真 18. 夕方には同社ブースがライブ会場に  
AXISS 社社長の知り合いの方々とか

### MQA (Meridian)

今年 Meridian ではなく、昨年新たに設立された MQA 社として出展。欧米で人気を上昇している高音質ストリーミングサービスの TIDAL が早期対応を表明。ノルウェーの 2L レーベルが自社音源を MQA ファイルで発売開始。日本の HQM ストア、e-onkyo music での対応も予定とソースの充実に伴い、賛同メーカーも順調に増えてきている模様。創業者で日本でもすっかり有名になった同社長の Robert (Bob) Stuart さんが今年も自ら説明に立たれ、力の入れ様が伺われる。

なお、Stuart さんからは、“日本オーディオ協会の皆様にも宜しく”との伝言を頂いております。



写真 19. Bob Stuart さん自らデモ

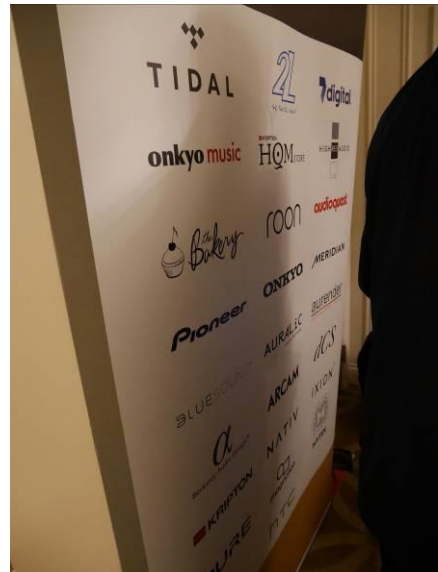


写真 20. MQA サポート企業



写真 21. マイテックデジタル  
ブルックリン DAC/HP アンプ



写真 22. 2L のコンテンツでハイレゾをデモ

### FURUTECH/αADL

電源アクセサリーで有名な同社も、毎年 Venetian に出展。今年は、αADL ブランドの STRATOS、DAC/ADC デジタルプリアンプ ADLH128 が、電源コンセントでは GTX-NCF が初登場。やはり US のマニアにも電源に拘る方は多い様。日本からは管理部の皆川さんが出張対応されていた。



写真 23. 電源アクセサリー



写真 24. ADLH128 とフルテック皆川さん

### オーディオノート (Kondo)

海外ではもっぱら創業者名の Kondo ブランドで知られているオーディオノート。同社 GINGA (ターンテーブル) に始まり、Kagura (パワーアンプ) まで同社のラインアップを展示。しっかりしたディストリビューターの方と組まれている模様で、丁寧にお客様に対応されていたのが印象的。日本からは、代表取締役の芦澤さんと久米さんが出張対応されていた。こういう日本的“おもてなし”精神が海外のハイエンドファンに高く評価されているのかも知れない。



写真 25. オーディオノート試聴コーナー



写真 26. オーディオノート久米さん、芦澤さん

## Zandén

大阪市をベースに長く活動されているハイエンドオーディオ工場のZandén。1980年創業で主に真空管を用いたアンプを手がけ、世界10カ国で展開されている。特に北米では高く評価されている模様で、Venetianにも毎年社長の山田さん自らご出張されており、毎年同社の展示を楽しみにしている日本の評論家の方も居られると言う。確かにフォノイコカーブの問題や、録音の正相・逆相の問題など、山田さんの口からポンポン飛び出る含蓄あるお話は非常に興味深く、思わず長く話し込んでしまった。

社長の思いが反映された商品群は、一つ一つが東大阪の匠達による手作りでクラフトマンシップにあふれたものであり、お話を聞いていると“下町ロケット”を思い起こした。



写真 27. エントランス



写真 28. 一番下が USB-DAC



写真 29. Zandén 山田さん



写真 30. Model9600MK2



## Infineon

昨年まで IR (International Rectifier) として参加していた D-AMP 用パワートランジスタ老舗の同社も、今年は Infineon に名前を変えて最新デバイスのデモ展示を行っていた。旧 IR 時代からのキーマンで D-AMP 関係著書で有名な、本田さんと西村さんが今年も対応。このブースはこの両名により音チューンされ、年々完成度が上がっていくのが毎年の楽しみの一つである。

Infineon 社による買収後も、米国西海岸の旧 IR 社開発拠点はそのまま残され、旧 IR 社 D-AMP の技術と Infineon 社の高速トランジスタ技術の統合により、“より高性能な D-AMP 用デバイスの供給が可能になる。” とのことです。今後も楽しみにしたい。



写真 31. 新デバイスによる 300W 級 D-AMP



写真 32. 新開発 SMPS 電源アダプターと D-AMP で音デモ



写真 33. Infineon の本田さん、西村さん



写真 34. 同社ラインアップ

Infineon 社のほかにも、Venetian には Ice-Power や M-Star などオーディオデバイスを手がける半導体メーカーも多くブースを構えており、また LVCC やその周辺のホテル Suite を使ってデモを行っている半導体メーカーもある。最新の技術情報を掴むのに絶好な機会でもあるので、商品を担当する若手エンジニアの方々にも積極的に参加して頂きたいと思う。

### Mu-so (Naim Audio)

UK市場で絶好調の Mu-so (Naim Audio)。元々日本語の“無双”からとられたネーミングだそうだが、欧米では“ミュージー”と呼ばれている。昨年日本にも登場し、そのデザインと音質で市場での存在感が高まっている。今回 CES で発表された姉妹モデルの Mu-so Qb (2016 年 春 発売予定) を前面に押し出した展示。

従来の Mu-so のデザインを継承しつつコンパクトに仕上がっているが出力は 300W。Airplay、Bluetooth® (aptX®)、Spotify Connect®、TIDAL、に対応し、5 部屋までのマルチルームも。

スピーカーネットをはずしたユニットの配置がわかる展示や、パーツ展示などを見せてマニア向けにもアピールしていた。



写真 35. Mu-so Qb



写真 36. Mu-so Qb カラー展開



写真 37. 内部スピーカー配置展示



写真 38. 分解、パーツ展示

## NAGRA

スイスの老舗で日本でもお馴染みのNAGRA。今回は、HD アンプ、CD-P、Classic Amp のほかに、新製品 Classic DAC を展示。DSD2x、DXD (384kHz/32bits) 対応とのこと。

HD アンプの内部構造展示もあり、精緻な造作はスイスの機械時計を髣髴とさせる美しさで、これに惹かれるファンが多いのも納得させられる。

筆者が訪問した時は、CD-P/Classic DAC/ Classic AMP のデモ中で、Wilson Audio の Sabrina を朗々と鳴らしていた。



写真 39. 同社試聴コーナー



写真 40. 同社 HD アンプ (モノ) 内部構造



写真 41. DAC CD AMP 等



写真 42. CLASSIC AMP 等

## ELAC

スピーカーのイメージが強い同社であるが、今回はエレクトロニクスに注目される展示が多数。Debut アンプは 2.1ch システム全体の特性を測定し、サブウーファーの帯域分割/位相を調整するシステム。Discovery Music Sever DS-S101 は TIDAL 対応サーバー。内臓ストレージを持たず、背面 USB を経由して外付け HDD ドライブをサポートするもの。



写真 43. Debut Integrated Amp



写真 44. Discovery Music Server

## Dan D'Agostino

新シリーズの Progression シリーズを今回発表した同社。日本でも良く知られている社長の Dan さん自ら来場されていた。昨年 Hi-End Show で知己を得ていたので挨拶をしたかったのだが、ファンの方もこの新シリーズは気になる模様で、多くの方が Dan さんに質問されており残念ながら挨拶できずに退室。



写真 45. 質問攻めにあっていた

Dan D'Agostino さん

と新シリーズ Progression アンプ



写真 46. 同社モメンタム・プリ

## Stillpoints

会場にて、“あれ？Paravicini さん（EAR）”と思って声をかけたらまったくの人違いで、Stillpoints の Bruce Jacob さん。“おお、Technics から来たのか、いいものを見せてやるよ！”ととりだされたのが、金属製のインシュレーター。スピーカー用（Ultra6）と基板用、共に 20kHz-100kHz の高域を減衰させて、“ディテールとハーモニクスを改善するんだ！”と。雑誌でも高評価とか。

この雰囲気ですりかけられると、何とも怪しく説得力がある。暫く話し込んでしまった。



写真 47. StillPoints Bruce Jacob さん



写真 48. 同社 Ultra6

## Lyn Stanley さん

日本でも多くのファンを持つ Lyn さんもずっと Venetian におられた模様。たまたま筆者が Project 社のブースでお見かけしたので、“日本のファンの方々に”とお願ひし、ご本人がお化粧を気にされる中で写真を取らせていただきました（写真 49）。その翌日 Technics ブースにも来られましたが、残念ながら筆者は別件で不在。その時メンバーが撮影したのが写真 50。意識されていたのか、こっちの方が断然素敵。日本のファンの皆様に宜しくと仰せつかっております。



写真 49. Project 社ブースにて



写真 50. Technics ブースでご自身の LP で確認中

audio-technica

同社は Venetian ではなく LVCC のサウスホールに大きなブースを構えていた。注目されていたのが、新アナログプレーヤーの AT-LP60-BT。Bluetooth スピーカーに音を飛ばせるのが特徴。



写真 51. 新発表 Bluetooth 出力つきアナログプレーヤーAT-LP60-BT



写真 52. 1962 年、創業時代の紹介パネル



写真 53. カートリッジ展示。新製品 150Sa も



写真 54. ヘッドホン群

LVCC サウスホールはノース、セントラルとは雰囲気異なり、新規技術関連ブースが多い。また HDMI や Z-wave などの規格団体も多くブースを構え、業界のキーマン達と情報交換できるのも有意義である。

今回は Lattice(元 Silicon Image)日本社長の竹原さんに MHL の最新動向を、アストロデザインの青木さんからは HDMI2.2 関係の測定器状況をお聞きする事ができた。お二人とも CES 常連で、こういった方々から得られる情報もホール巡回で役立つことが多い。



写真 55. 竹原さんと MHL ケーブル



写真 56. アストロデザイン 青木さん

## Technics

昨年に続き2回目の参加であり、今年は二部屋に分けて、大きめの Suite で昨年同様の R-1/C700 シリーズと新製品の SU-G30/SL-1200 を、その隣の小さめの Suite で SC-C500/EAH-T700 の展示と音デモを行った。

経験を積んで、昨年より少しは手際よくブースの立ち上げ、運営、撤収ができたが、相変わらず吸われすぎの高音には手を焼いた。

CES 前日の Panasonic プレスカンファレンスで、Technics 新商品群の発表も行われ、特に注目を集めたのが新開発のレコードプレーヤー SL-1200GAE。それを見に来られる方が多くブースは常ににぎわっており、筆者も対応に追われていた。中には試聴はせずにと静展示を食い入る様に眺めたり触ったりされている方もおられ、多くの人に愛されてきた同シリーズの歴史を実感させられた。

また、LVCC セントラルホールの Panasonic ブース内にも Technics コーナーを設置。こちらにも多くのお客様に来訪頂いた。



写真 57. 試聴室風景



写真 58. US StereoPhile 誌 Herbert Reichert さんも時間をかけて SL-1200 を取材



写真 59. SL-1200 復活を喜ばれ記念撮影中。  
(この人はどこかのバイヤーです)



写真 60. ドイツ Stereo 誌 Matthias Böde さん



写真 61. GaN サプライヤーの EPC 社  
経営陣と筆者



写真 62. そこに飛び込んできた EAS 社の  
Skip Taylor さん。そのまま技術の売り込みを



写真 63. ライターの山本敦さん  
EAH-T700 音質をご確認頂きました



写真 64. OTTAVA SC-C500 試聴コーナー  
部屋の雰囲気デザインにマッチし高評価



写真 65. LVCC Panasonic ブース内展示 1  
SL-1200GAE/SU-G30/SB-C700

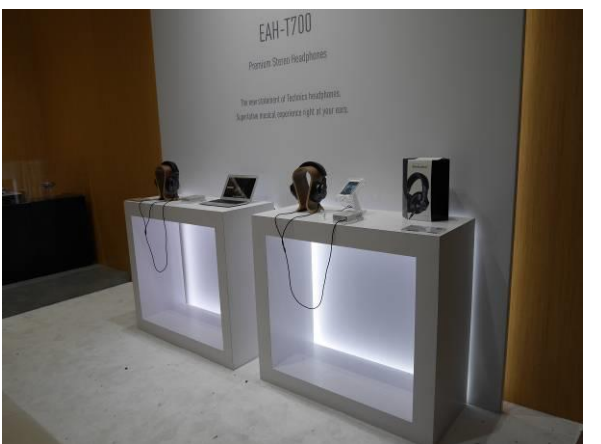


写真 66. LVCC Panasonic ブース内展示 2  
EAH-T700



## Behind The Curtain

更に、今後 Venetian に参加される方の為に裏情報を少々。

写真 67、68 は BlueBox と呼ばれる電源 BOX (テーブルタップ)。各ブースに主催者側から支給され、展示者はこの BOX を経由して展示機器に給電する事が義務づけられている。この BOX には、1000W のブレーカが仕込まれており、一旦ブレーカが飛ぶと、キーで開錠しないと復帰できない構造になっている。キーは主催者が管理され、展示者が勝手に復帰する事はできない。ブレーカを飛ばすと 1 回目は無償で修復されるが 2 回目以降はペナルティーの支払いが生じ、4 回目は運営側により部屋の電源をシャットダウンさせるという規定。このようなシステムは他の展示会では見かけないが、天井知らずになる電力を制限させる意味で使用されているもの。当然音質にも影響を与えていると思われる。



写真 67. BlueBox



写真 68. Technics ブースで使用

各部屋 Max 2 台まで支給されるので都合 2kW までが使用できる電力。昨年、我々は試作段階の大型アンプを持ってきたため突入電流が大きく、期間初頭に 1 回飛ばしてしまい、その後ひやひやしながらショーをこなしていた。幸い今年は 1 度も飛ばすことなく終える事ができたが、トラブルを出していた出展者もいた模様である。

## 著者プロフィール

井谷 哲也 (いたに てつや)

1980 年 松下電器産業 (現パナソニック) 株式会社入社。CD プレーヤー、レーザーディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、BD レコーダ等の商品開発を担当の後現職。

現職：パナソニック(株)、アプライアンス社、ホームエンターテインメント事業部、テクニクス事業推進室、CTO/チーフエンジニア。